

経営比較分析表（平成30年度決算）

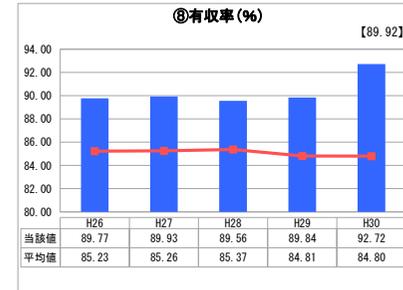
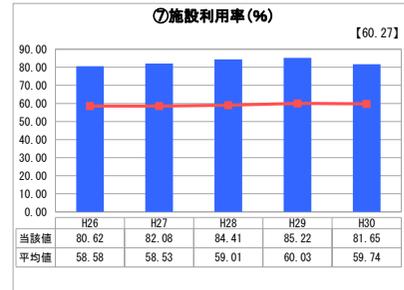
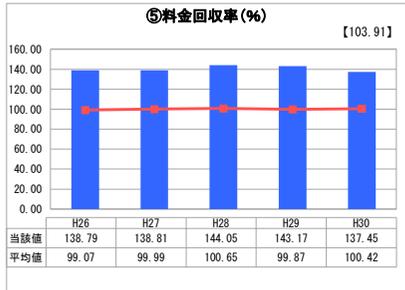
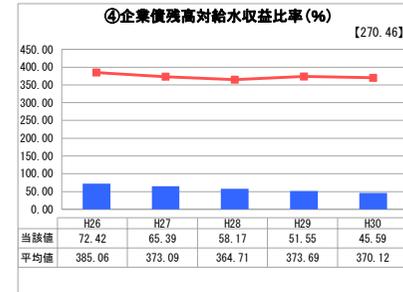
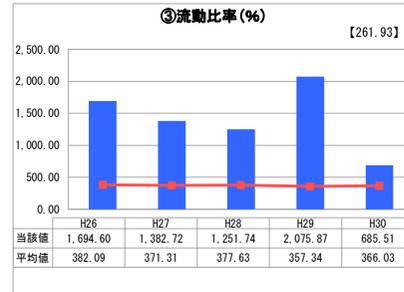
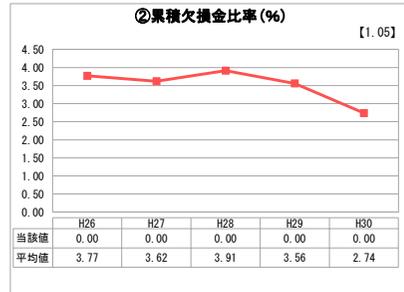
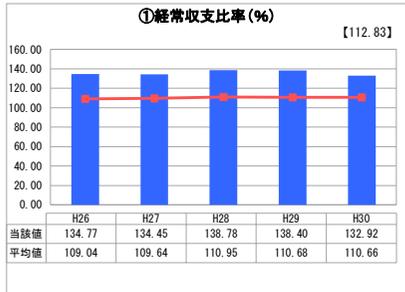
福岡県 筑後市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	91.53	79.99	3,520	

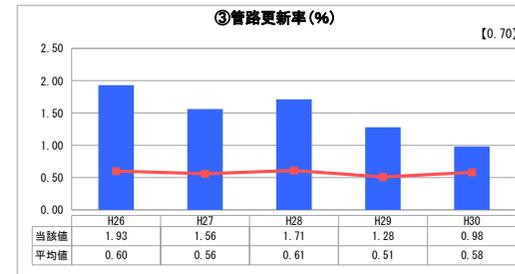
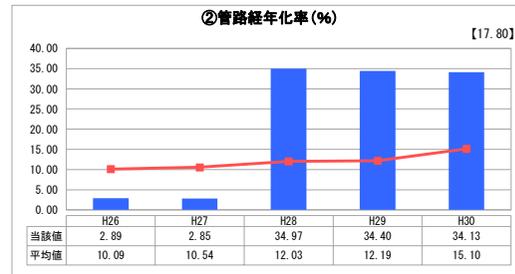
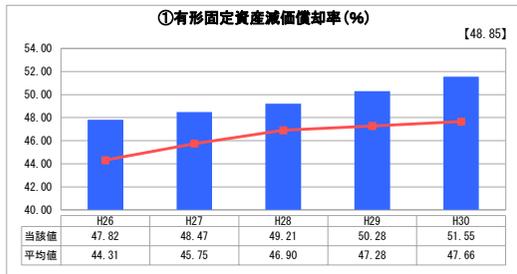
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
49,317	41.78	1,180.40
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
39,736	41.85	949.49

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率や累積欠損金比率等から、健全で効率的な経営状況であるといえる。給水原価がやや上昇し料金回収率と施設利用率は若干低下したが、有収率は伸びており、今後はさらなる有収率改善をめざし収益を上げていかなければならない。建設改良費の増加に伴い流動比率は低下したが、必要な投資を適切に行っており、全体としては概ね安定し効率的な運営がなされているものと判断できる。今後の人口減少等による給水収益の動向について引き続き検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

管路更新事業として現在令和3年度までの計画が進んでおり、管路経年率は若干であるが下降してきてはいる。しかし、管路更新率からみるとさらなる更新投資が必要であると考えられるため、次期更新事業を実施するよう計画している。今後も経年率は進行するため、費用対効果を十分に検討しながら対策を行う必要がある。

全体総括

全国平均、類似団体平均と比較すると、経営状況は良好である。有収率は改善し伸びをみせたが、更なる改善をめざし収益をあげる努力を行うとともに、引き続き経費削減に努める必要がある。今後の人口減少にとともに料金収入等の動向を見据えながら、収益確保や計画的な設備投資を行うことが求められるとともに、将来的な現有施設の改修等についての検討も進めていくべきである。

老朽化対策は概ね順調に進んでいるが、管路経年率は高水準であり、また、減価償却率が比較的高い状況に変わりはなく、早期に事業を拡大する等対策への投資を推進すべき状況である。現況では経常損益、債務残高が良好であるものの、管路更新率は低く投資控えの状況にあるため、今後は更なる老朽化対策事業を早期に実施していく必要がある。

令和2年度に経営戦略を策定する計画であり、総合的な分析により経営の健全化・安定化を目指すしていく。